

留萌南部 3 市町地域連携ビジョン

平成 2 9 年 8 月
留萌市・小平町・増毛町

南留萌 3 市町地域連携ビジョン

1 連携地域の名称及び構成市町村

(1) 連携地域の名称

留萌南部3市町連携地域

(2) 構成市町村

留萌市、小平町、増毛町

2 南留萌3市町地域連携ビジョンの取組期間

平成29年度から平成33年度までの5年間とし、毎年度所要の見直しを行う。

3 連携地域の将来像

(課題)

留萌南部3市町連携地域は、北海道の中央部西端に位置する留萌振興局管内の最南端に位置しており、高規格幹線道路深川留萌自動車道の開通により、札幌市や旭川市からの交通アクセスが向上している地域である。

また、基幹産業は、日本海の豊かな恵みによって生かされている漁業や、高品質米や地域独自の小麦を生産する農業、生産量日本一を誇る塩かずの子を中心とした水産加工業があり、その地域資源を活用した体験型観光も盛んになってきており、今後の発展に向けて大きな可能性を持った地域である。

しかしながら、首都圏等でのイベントの際には、各市町がそれぞれ単独で食・観光・プロモーション施策等の取組を推進してきたところであるが、各市町の観光地としての知名度の低さとPR不足などにより、大きな効果が得られていない状況にある。

留萌南部3市町連携地域の人口の推計では、全国、全道を大幅に上回る人口減少率となっており、こうした状況が今後一層進むと考えられるため、早急に対応していく必要があるが、各市町単独では効果が低い現状があることから、地域全体でスケールメリットを活かした取組が必要となっている。

南留萌3市町連携地域の人口の推移及び推計

(単位:人、%)

	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2015-2040 増減率
留萌市	32,429	30,060	28,325	26,826	24,457	22,200	20,762	19,237	17,662	16,117	14,678	△ 33.9%
小平町	5,333	4,855	4,566	4,272	3,717	3,358	3,071	2,788	2,516	2,270	2,045	△ 39.1%
増毛町	7,166	6,652	6,167	5,708	5,078	4,559	4,104	3,668	3,274	2,912	2,578	△ 43.5%

(参考) 全国 △15.3% (2015年:12,660万人⇒2040年:10,727万人)

全道 △21.8% (2015年:536.1万人⇒2040年:419.0万人)

(目指す姿)

本連携地域における留萌市、小平町、増毛町では、人口減少社会の本格化に対応するため、地域の特色ある取組を互いに連携して、積極的に推進していくこととします。

具体的には、留萌南部3市町連携地域協定に置いては、生活機能の強化に係る政策分野として産業振興、そして、結びつきやネットワークの強化に係る政策分野として地域内外住民との交流・移住促進を連携項目としました。

留萌南部3市町連携地域では、3市町が互いに連携しながら、これらの施策を、国や道をはじめ、産官学労言など、様々な主体とともに、積極的かつ戦略的に進めることで、圏域内で経済の好循環が起こり、そこに住む人々が元気で楽しく、安心して長く暮

せ、住むことが誇りとなる地域となること（地域のブランド化）を目指します。

4 地域連携協定に基づき推進する取組

（１）生活機能の強化に係る具体的取組

ア 産業振興

（ア）南るもい広域連携プロモーション事業

〈協定の内容〉

都市部での知名度向上を図るために、留萌南部地域における食を中心とした地域資源を生かした連携による、総合的な広域戦略づくりを展開する。

〈具体的取組〉

事業内容	<p>当地域は、全国有数の品質を誇る米をはじめ、クリーンな野菜や果物、新鮮な水産物などの食にあふれた地域であるが、公共事業の減少や人口減少による消費の減退などから地域活力の更なる低下が懸念されており、地域の特産品の管外への売り込みや、観光客によって域内消費を増加させるといった地域の「強み」である食資源を活かしながら観光施策と絡めた産業振興の展開を図っていくことが必要である。</p> <p>このため、新たな人の流れを作り、地域消費を拡大していくために、「食」を核として「行ってみたい」「体験してみたい」と思わせる価値やコンテンツを生み出し、旅行業者・雑誌社へのプロモーションや首都圏・札幌圏における売り込みなどを行い、食を核とした留萌南部3市町の更なる魅力の向上や誘客の促進を図っていく。</p>
事業効果	<p>当地域では、これまで各市町村において、新鮮な魚介類や水産加工品、高品質のるもい産米などの農産物、さらには、果樹や最北の酒蔵など、バラエティーに富んだ食資源を活かしながら、地域情報の発信や物産イベントへの出展などの様々な取組を通じて、地域の魅力をPRしてきたが、観光客の増加にはなかなか結びついていない。</p> <p>今回の取組をきっかけに、留萌南部3市町が連携し、地域の「強み」の一つである豊富な食資源をフルに活用して、その食資源とそれぞれの市町が有する地域資源を相互に結びつけることで、個々の資源の魅力を相乗させ増強させていく。</p> <p>また、広域的な視点で効果的にプロモーションを展開することにより、道内外の観光客のみならず、外国人観光客の行動範囲の拡大や旅行ニーズの多様化に対応することができるとともに、連携による相乗効果で魅力的な観光資源が増えれば増えるほど、地域内の回遊性が高まり、当地域の観光の弱みである日帰り観光地からの脱却が期待される。</p>
役割分担	<p>【担当町の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体調整及び総合窓口は留萌市 ・ 民間事業者及び関係団体との企画調整等総合業務 ・ 各町における重点施策や各種情報の集約業務 <p>【担当町以外の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 圏域連携による観光や事業等のプロモーション活動の実施 ・ 映像及び冊子作成等に伴う取材、情報提供などの各種調整業務 ・ 各町における重点施策や各種情報の共有
指標	地域内観光入込客数 平成33年度までに5%増（H28：821,387人）

	※「平成 28 年度北海道観光入込客数調査」北海道経済部観光局					
事業費見込額 (単位：千円)	H29	H30	H31	H32	H33	計
	8,560	6,600	7,690	600	600	24,050

(事業費一覧)

(単位：千円)

市町村名	H29	H30	H31	H32	H33
留萌市	2,854	2,200	2,563	200	200
小平町	2,853	2,200	2,563	200	200
増毛町	2,853	2,200	2,564	200	200
合計	8,560	6,600	7,690	600	600

(2) 結びつきやネットワークの強化に係る具体的取組

ア 地域内外の住民との交流・移住促進

(ア) 地域間交流等誘致促進事業

〈協定の内容〉

平成31年度に予定されている、高規格幹線道路深川留萌自動車道留萌IC(仮称)開通に伴い、都市部からの移動距離が短縮し、留萌南部地域がより身近な地域となることから、広域連携による交流・移住促進PRの充実を図る。

〈具体的取組〉

事業内容	<p>深川留萌自動車道は、平成31年度に留萌IC(仮称)の供用開始が予定され、長年の悲願であった全線開通が間近に迫っている。</p> <p>深川留萌自動車道の全線開通は、留萌南部地域への人の流れを拡大させ、その効果を地域活性化に繋げる絶好の機会であり、この機会を逃すことなく、様々なプロモーションを展開していくことが必要であることから、全線開通により道内各地から留萌南部地域までの移動時間が短縮され、留萌南部地域がこれまで以上により身近になることを多くの道民の皆様幅広く周知するとともに、札幌圏や旭川圏へのプロモーション活動等を積極的に実施して留萌南部地域の魅力をPRしていく。</p>
事業効果	<p>深川留萌自動車道の全線開通は、留萌南部地域をPRする絶好の機会であることから、人やモノの交流拡大が期待される周辺地域が一体となって、地域の魅力の発信や周遊を促す誘客プロモーションなどを実施していくことで、留萌南部地域への交流人口の拡大が図られ、全線開通による経済効果が留萌地域全体に波及していくことが期待される。</p> <p>また、全線開通後もその効果を維持、若しくは拡大していくためには、周辺地域が連携して、地域資源の魅力を相互に高め、観光客の満足度の向上やリピーターの拡大、観光資源の発掘に取り組み、留萌南部地域をより身近に感じていただくことで、深川留萌自動車道が全線開通した後も、継続した交流人口の拡大が期待される。</p>

役割分担	【担当町の役割】 ・全体調整及び総合窓口は留萌市 ・民間事業者及び関係団体との企画調整等総合業務 ・各町における重点施策や各種情報の集約業務 【担当町以外の役割】 ・圏域連携による観光や事業等のプロモーション活動の実施 ・映像及び冊子作成等に伴う取材、情報提供などの各種調整業務 ・各町における重点施策や各種情報の共有 ・交流促進及び移住情報の発信					
指標	交流人口拡大メニューへの参加者（留萌市：音楽合宿、小平町：交流ツアー、増毛町：お試し住宅）平成33年までに200名 ※各市町総合戦略より					
事業費見込額 (単位：千円)	H29	H30	H31	H32	H33	計
	6,440	8,400	7,310	300	300	22,750

(事業費一覧)

(単位：千円)

市町村名	H29	H30	H31	H32	H33
留萌市	2,146	2,800	2,437	100	100
小平町	2,147	2,800	2,437	100	100
増毛町	2,147	2,800	2,436	100	100
合計	6,440	8,400	7,310	300	300

5 連携地域の概要

 <p>留萌市 Rumoi City</p>	<p>人口：21,865人 (H29.7月31日現在) 面積：297.83 km²</p>	<p>【特産品・グルメ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○かずの子 ○鯧 ○寿司 ○あずま牛 ○豚ジスカン ○やん衆にしんづけ ○ルルロツソ ○豚ちゃん焼 <p>【観光名所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○黄金岬海浜公園 ○千望台 ○ゴールデンビーチるもい ○礼受牧場 ○旧留萌佐賀家漁場  <p>[黄金岬海浜公園と夕陽]</p>
<p>北海道中央部西端に位置し、北西部は日本海に面している。地名はアイヌ語の「ルルモッペ」が語源で、「汐が奥深く入る川」という意味。江戸末期から明治、大正、昭和と百年以上にわたりニシン漁が人々に与えた恩恵は、暮らしや文化、芸能、建造物に色濃く残っている。</p> <p>水産加工を基幹産業とし、現在はニシンの魚卵であるカズノコの国内最大の加工地となっている。</p> <p>作曲家佐藤勝氏をはじめとする音楽関係者を多く輩出し、近年音楽関係の合宿地として誘致活動が盛んである。</p>		

 <p>小平町 Obira Town</p>	<p>人口：3,233人 (H29.7月31日現在) 面積：627.22 km²</p>	<p>【特産品・グルメ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ホタテ ○タコ ○うに井 ○小平牛 ○アイボリーメロン ○おびまるコロケ ○にしんの三平汁 ○にしん親子丼 <p>【観光名所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○道の駅「おびら鯧番屋」 ○食材供給施設 ○重要文化財「旧花田家番屋」 ○にしん文化歴史公園 ○望洋台キャンプ場 ○望洋台スキー場 ○海水浴場（臼谷海水浴場・おにしかツインビーチ） ○パークゴルフ場（小平町国際パークゴルフ場・鬼鹿パークゴルフ場）  <p>[にしん文化歴史公園と夕陽]</p>
<p>小平町は、北海道の西海岸に位置し、明治から大正にかけてニシン漁で栄えてきた。その当時の暮らしを垣間見ることのできる「旧花田家番屋」は、建造物では最北端の国指定重要文化財であり、北海道遺産にも認定されている。</p> <p>現在は漁業、農業のまちとして、タコ・ウニ・ホタテ・メロンなどを生産している。</p> <p>夏は、海水浴・キャンプで賑わっており、冬は競技スキーも盛んで、金メダリスト阿部雅司氏やアルペン競技日本代表の滝下靖之氏を輩出している。</p> <p>地名の語源はアイヌ語で「川口に崖のある所」を意味する「オピラウシペツ」だ。</p>		



増毛町
Mashike Town

人口：4,419人
(H29.7月31日現在)
面積：369.71 km²

北海道北西部の留萌振興局管内南部の町。日本海の海岸美が見られる雄冬海岸と暑寒別天売焼尻国定公園の一部である暑寒別岳を抱えています。町名の由来はアイヌ語の「マシケイ」が語源で、「カモメの多いところ」という意味。歴史は古く、町内には重要文化財に指定された旧商家丸一本間家などレトロな建物が立ち並ぶ。

漁業、水産加工業、果樹栽培が盛んであるり、また、暑寒別岳の伏流水を利用した酒造も行われており、国稀酒造は日本最北の造り酒屋である。

【特産品・グルメ】

○国稀 ○甘えび ○ポタンエビ ○タコ
○海鮮丼 ○ホタテ ○タコ
○さくらんぼ ○洋梨 ○りんご
○ぶどう ○もも ○タコザンギ
○シードル ○タコやわらか煮

【観光名所】

○国稀酒造 ○旧商家丸一本間家
○リバーサイドパーク ○元陣屋
○果樹園 ○岩尾温泉あつたま〜る
○暑寒別岳（登山） ○暑寒別岳スキー場
○雄冬海岸 ○増毛駅



[旧商家丸一本間家]